

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	日吉みんなの保育園
経営主体(法人等)	非特定営利活動法人 こぶしの会
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒223-0061 横浜市港北区日吉2-9-6
設立年月日	平成20年4月1日
評価実施期間	平成29年5月～29年12月（契約月～評価委員会月）
公表年月	平成30年2月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
【施設の立地・特徴】 ・立地および施設の概要 昭和 48 年に保護者・職員・地域の共同運営で「下田共同保育所」としてスタートした園は、その後、横浜保育室を経て、平成 20 年 4 月に横浜市認可保育所「日吉みんなの保育園」として開園しています。平成 25 年 4 月には近隣ビルの 1 階に分園（0、1 歳児クラスの保育）を開設し、在籍 48 名（定員 48 名）の保育園になりました。平成 29 年 4 月に姉妹園である「下田みんなの保育園」を開園しています。設置法人は、特定非営利活動法人こぶしの会です。園は、東急東横線日吉駅から商店街を徒歩数分の利便性の良い、バス通りに面しています。 ・園の特徴 園庭がありませんが、子どもたちは毎日公園や緑道に出かけます。地域を知ったり、探索活動、季節の移り変わりを楽しめるよう散歩コースをたくさん用意しています。園では基本的に布おむつを使用しています。おむつが濡れた時の不快な感覚を子どもは知ることができます。 食事へのこだわりとして、地域の信頼のおける商店から届く国産の食材の持つおいしさを生かすため、だしは煮干しやかťお節などからひき、薄味を心がけています。 外部の専門講師によるアトリエ（絵画）教室、歌の教室、習字活動が定期的にあり、子どもたちは表現活動を楽しんでいます。 【特に優れていると思われる点】 1. 日々の積極的な園外活動と健康増進 園庭がありませんが、商店街、駅、大学構内、田んぼなど園周辺の環境に関心を持ちながら歩いたり、開花、新緑、実りや紅葉、冬の裸木など季節の移り変わりを楽しめるように、散歩コースをたくさん用意しており、雨が降らなければ毎日園外活動に出かけています。大学の馬術部に馬を見に行ったり、バツタやダンゴムシなど探したりすることも子どもたちのお気に入りです。また、公園の固定遊具遊びのほか、大学構内の歩道や地域の緑道でのかけっこ、土手や石垣登り、夏の時期の水遊び、プールなど健康増進の工夫も活動に取り入れています。 2. 「子どもをまんなか」にする保育の実践 保育方針の中に「子どもをまんなか」という言葉があり、職員は「子どもにとってどうか」ということを常に考えています。事例として苦手な献立を食べきれなかった場合も「次は頑張る」という子どもの前向きな発言や、職員が描いた絵を子どもの誰がもらうかで子ども同士相談した結果「誰かがもらうともうえな子が出るから」と職員に返したエピソード、恒例となっている 5 歳児クラスの運動会の出し物	

「龍舞」にあこがれ、4歳児クラスから「自分たちもやりたい」との思いを受け止め、今年度は一緒に取り組んでいます。職員は、子どもたちの頑張り、思いやり、育ちあっている姿を指導計画や今年度より取り組んでいる実践記録に丁寧に残すなど、保育の実践に努めています。

3. 共同運営時代からの保護者との交流連携

保護者会とは保護者向けのアンケート実施およびまとめ、子どもたちの遠足の企画、園行事の保護者協力のための事前アンケートなど、園運営のサポートに協力しています。毎月発行している園だより「みんなのこどもたち」では全クラスの保育の様子を知ることができます。4月号は全園児の自己紹介文（保護者記載）を載せています。保護者と協力連携し、子どもの育ちを見守ってきた歴史とともに、保育理念の「保護者・地域・職員が子どもと共に育ちあう」ために取り組んでいることがうかがえます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 園の方向性のさらに明確化するための中長期計画

分園拡張などを位置付けた中期計画と、園庭付きの本園の設立を示した長期計画を策定しています。今後も地域情勢や保育園に求められる支援ニーズの把握に努めながら中長期計画内に取り入れていかれることが期待されます。併せて園の進む方向をさらに明確にするため、中長期計画の定期的な進捗状況確認の機会をもつことも期待されます。

2. 整理整頓や落下防止策など安全対策の工夫

保育室や廊下の棚は、転倒防止の器具や、ひもで縛って固定をしており、転倒防止など対策を講じています。しかし、上に積み重ねたものが落ちてくる可能性がありますので、整理整頓と落下防止策を講じられることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重	・保育理念は「子どもの人権を守る」「保護者・地域・職員が子どもと共に育ちあう」で、方針は「職員と家庭が子どもをまんなかに話し合っ保育を進める」「職員は子どもの一人ひとりを理解し、楽しく園生活を送れるように援助する」としています。園目標は「自分のことが好きな子」「元気で意欲的な子」「自分で考え行動できる子」に育つこととし、保育にあたっています。園長は、理念や方針に基づいて、「子どもにとってどうなのか」を常に考え保育をするよう職員に話をし、職員は実践につなげています。 ・職員は、穏やかで優しい言葉かけをしています。子どもが約束事を守れなかった時は注意をしますが、素直な「ごめんなさい」のほか、子どもに「なんでこうなったのかな」など問いかけながら、子どもの訴えや気持ちをしっかりと受け止めるよう努めています。 ・守秘義務、個人情報の取り扱いについては、運営規定と、「個人情報保護方針」に定めています。実習生・ボランティアを受け入れる際にも説明をしています。保護者には入園時の説明や、必要に応じてその都度確認をしています。個人情報に関わる書類は、事務室の鍵のかかる文書戸棚に保管管理をしています。 ・「自己評価表（自己チェックリスト）」の項目内において性差による先入観について確認しています。
2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・保育理念、基本方針、目標に基づいた保育を実践するために、それらを保育課程に明記しています。保育課程に基づいた年間指導計画から月間指導計画、週案を作成しています。職員は月2回の職員会議での話し合いや、振り返りの時間を設け、子どもの様子を共有し、保育に活かしています。

	・0～2 歳児クラスは個別の指導計画を作成し、一人一人の発達に合わせ、丁寧に関わっていかうとしています。月 2 回の職員会議で情報を共有し、意見交換を行い柔軟に変更・見直しを行っています。保護者には、園での工夫点を交えながら子どもの状況に合わせて説明し、同意を得ています。 ・保育内容の遊びでは、子どもの年齢、発達に応じたおもちゃ、教材、絵本を用意しています。子どもたちは毎日公園や緑道に出かけます。地域を知ったり、探索活動、季節の移り変わりを楽しめるよう散歩コースをたくさん用意しています。公園の固定遊具遊びのほか、大学構内の歩道や地域の緑道でのかけっこ、土手登り、石垣登り、夏の時期の水遊び、プールなど健康増進の工夫も活動に取り入れています。 ・食事、排泄、睡眠については一人一人の発達状況・健康状態や生活パターンを把握・考慮しながら、保護者と連携を取り、家庭との連続性を心がけています。食事へのこだわりとして、地域の信頼のおける商店から届く国産の食材の持つおいしさを生かすため、薄味を心がけ、だしは煮干しやかťお節などからひいています。食育として健康、栽培、調理などに関心が持てるようにしています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・入園時に把握した生育歴を始め、入園後の子どもの成長発達記録は、児童簿、問診票、心身の発達記録に記録し、個別にファイルしています。0～2歳児は毎月、3～5歳児は期ごとに発達状況を確認しています。記録内容は事務室の文書戸棚に保管し、全職員が共有できるようにしています。進級時には、「申し送り表」を作成し、新旧の担任で丁寧な申し送りを行っています。 ・職員は、発達支援、虐待、アレルギー、外国籍など配慮が必要な子どもの様子については職員会議で報告、話し合い、記録を残しています。配慮が必要な子どもの保育について研修など職員間で学んでおり、すべての職員が同じ認識を持って保育にあたる体制があります。 ・意見箱の設置、懇談会、個人面談、保護者会組織など保護者から意見や要望を聞く機会があります。「苦情処理関係」ファイルは、メモシート、個人的な手紙、日々の連絡帳に寄せられた意見のコピー、申し出書などさまざまあります。意見要望に対しては、個別対応のほか、園だよりでのフィードバックもあり、データを蓄積・整理し、解決に活かそうと努めています。 ・健康管理・衛生管理・安全管理などに関する各マニュアルを整備し、マニュアルに基づいた対応や訓練を行っています。マニュアルは、全職員が参加の全体会議に毎年読み合わせと検討をしています。行政、医療機関、児童相談所など必要な関係機関・地域の団体の連絡先を把握しています。
4.地域との交流・連携	・一時保育は毎週月曜日に1、2名受け入れています。毎月第2土曜日には園主催の子育て支援事業「遊ぼう会」を実施しています。年8回開催される、港北区の0歳児地域育児教室「赤ちゃん会」には主に園長が赴いています。園の栄養士による定期的な食育の学習会のほか、交流保育では、外部講師を招いてダンスや歌を楽しむ会、歯に関する勉強会など行っています。絵本の学習会では、作家が短い言葉一つ一つに込めた思い、編集者の絵本編集に関するこだわりなどを聞く貴重な機会になっています。 ・町内会に入会し、第三者委員は副会長にお願いをしています。散歩など園外活動時は、地域の人々に挨拶をしたり、遊びに来ていた親子連れに、園児が遊び道具

	を貸してあげたりと地域の人と自然な関係を築いています。お泊り保育やクッキングの材料を商店に子どもと一緒に買いに行っています。毎年ハロウィン行事では、4、5歳児が仮装をして近くの商店街を歩き、お菓子をもらっています。 ホームページにて提供サービス、保育内容、子育てアドバイスなどの情報を定期的に発信しています。園のパンフレットは、わくわく子育て広場など、地域との交流時に持っていき配布するとともに、遊ぼう会の来園者へも配布しています。NPO法人びーのびーの発行の「びーのびーの幼稚園と保育園ガイド」に園の情報を毎年提供しています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	- 週案の「週の振り返り」と「保育反省」や、年間指導計画の「自己評価」は、園の保育理念・保育目標・保育方針の視点をもって記載をしています。事業所独自の「自己評価(自己チェックリスト)」中には、保育の理念や基本方針、保育課程について問う項目も設けられています。 - 運営規定にて、差別や虐待、個人情報保護など、法や規範、倫理などを明文化しています。運営規定は、入職時に説明するとともに配付し、周知しています。 - 経営、運営、保育に関する社会情勢などの情報は、職員会議の社会情勢を毎回伝達する「情勢」の際に伝えられているほか、労働組合との交渉の場においても公開しています。決算については園のホームページにて公開をしています。 - 生ごみはコンポストを利用して堆肥にし、野菜作りに利用しています。園内に「いつでもバザー」コーナーがあり、古着のリユース品を100円で販売しています。使用しなくなった絵本などを、陸前高田の図書館に寄付しています。
6.職員の資質向上の促進	- 次代の施設運営に備え、姉妹園開設にあたっての園長候補について、当時の主任を副園長とし、園長とともに園長業務や、会議、他園への情報交換のための訪問に同行してもらい、園長としての資質を磨いてもらうなど、計画的に後継者を育成しています。 - 職員の経験年数や職位に合わせた園の特色に応じたキャリアパスを構築し、習熟度に応じた役割を期待水準として明文化しています。 - 経験年数やスキルに合わせた個別の研修計画の書式があり、進捗状況の確認ができるようになっています。 - 年間指導計画、月間指導計画、週案・保育日誌があり、書式が定型化されています。年間指導計画（期ごと）・月間指導計画に自己評価の欄があります。子どもの様子、取り組む姿を書くように努めています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題は職員会議で話し合っています。

評価機関による評価

平成 29 年 11 月 3 日

事業所名 日吉みんなの保育園

 3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I－1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成   	・園の保育理念、保育方針、保育目標は横浜市認可保育所以前の共同保育所時代から変わらない主旨となっています。保育理念は「子どもの人権を守る」「保護者・地域・職員が子どもと共に育ちあう」で、方針は「職員と家庭が子どもをまんなかに話し合って保育を進める」「職員は子どもの一人ひとりを理解し、楽しく園生活を送れるように援助する」としています。園目標は「自分のことが好きな子」「元気で意欲的な子」「自分で考え行動できる子」に育つことし、保育にあたっています。園長は、理念や方針に基づいて、「子どもにとってどうなのか」を常に考え保育をするよう職員に話をし、職員は実践につなげています。 ・保育課程は、平成 20 年の開園時に全常勤職員で作成しています。常に子どもの姿に合わせたものになるように毎年見直しを行っています。今年度は、子どもの育ちがより一貫性のある表現にするため一部を変更しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに前年度の反省をふまえた年間指導計画を作成しています。その後の月間指導計画、週案を作成する際は、日々の子どもの考えや発言、興味関心を受け止め、職員主導と子どもの自主的活動とのバランスを考慮しています。
I－2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施   	・入園説明会後の面接、入園直後の子どもの様子、送迎時の親子の雰囲気などを観察しています。その他提出書類から得た子どもの発達状況や課題などは個人別にファイルしています。全職員が日々の保育上、必要に応じて確認ができるようにしているほか、月 2 回の職員会議で子どもの様子を報告し合い、同じ認識を持つようにしています。 ・ならし保育期間は 1～2 週間を目安とし、「ならし保育予定表」で個別に無理の無いように進めています ・1 歳から 2 歳児クラスへの進級の際は、分園から本園に移動になり、環境が大きく変化するため、年間指導計画の 4 期に「2 歳児クラスに見学に行く、遊びに行くなどして進級を楽しみにする」を盛り込んでいます。 ・保育課程に基づいて、子どもの発達や状況に応じて各学年で年間・月間指導計画、週案を作成しています。月齢の差がある 0 歳児クラスは、2 通りの年間指導計画を作成し、一人一人の発達に合った計画にしています。年間指導計画は期ごと（4 期）、月間指導計画は毎月評価、振り返りを行っています。職員会議で、発達の状況を把握し、見直しをしています。
I－3 快適な施設環境の確保   	・園舎内はマニュアルやチェック表に基づいて 1 日 2 回清掃をしており、清潔な状態を保っています。トイレは床拭きをまめにすることで、スリッパの使用はしていません。適宜窓を開け、風が通るようにしています。トイレは 24 時間換気をしています。エアコン、扇風機、加湿機能付き空気清浄機、全保育室床暖房を設置しています。 ・0、1 歳児クラス、2～4 歳児クラスはオープンルームでの保育をしています。歌の指導を全体で行ったり、ほかのクラスに影響のないように活動時間の工夫をしています。職員の声の大きさについて、気づいた時は話し合いをしています。 ・小集団保育のため、主に 1 歳児が使用する保育室は畳のスペースがあるほか、遊びによってコーナーを作っています。2 歳児クラスの奥に小さなスペースがあり

	ます。3歳児クラスの隅には「デン」と呼んでいる階段下の小さな隠れ家のような空間を設けています。0、1歳児クラス、2～4歳児はオープンフロアでの保育のため、常に合同で遊べる環境があります。子どもたちは日々お互いの様子を感じ合い交流できる場になっています。
I－4 一人一人の子どもに個別に対応する努力 	・0～2歳児クラスは、発達の個人差を踏まえた上で、一人一人に見合った保育が行われるよう個別の指導計画を作成しています。特に配慮や援助が必要な幼児には個別の指導計画を作成しています。月間指導計画書式の「気になる子への対応欄」も活用しています。 ・入園時に把握した生育歴を始め、入園後の子どもの成長発達記録は、児童簿、問診票、心身の発達記録に記録し、個別にファイルしています。0～2歳児は毎月、3～5歳児は期ごとに発達状況を確認しています。進級時には、「申し送り表」を作成し、新旧の担任で丁寧な申し送りを行っています。
I－5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み 	・障がいの特性や障がい児保育について職員間で学ぶ時間を設けたり、職員会議でケース検討を行い、すべての職員が同じ認識を持って保育をする体制があります。横浜市総合リハビリテーションセンター職員の巡回指導のほか、センターでの子どもの様子を把握するため、職員の見学も実施しています。 ・虐待対応マニュアルがあり、職員は虐待の定義を周知しています。子どもの着替え時にさり気なく観察したり、朝の子どもの表情を良く観ています。子どもの何気ないつぶやきも聞き逃さず、必要に応じて全職員で見守る体制を作っています。虐待が明白になった場合は、園長が区のこども家庭支援課、横浜北部児童相談所など適切な関係機関に報告をする体制を整えています。 ・横浜市「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」に則り、園のアレルギーマニュアルを策定し、適切な対応に努めています。除去食の提供について、保護者との連携を密に取っています。毎日「食物日誌」でのやりとりをしています。食物アレルギーのある子どもの食事は専用のすみれ色のトレイ、写真、除去名付きの名札を使用し、おかわりも一緒に提供しています。調理室から一番最初に担任に食事を手渡しし、配膳時は複数の職員で再度確認をしています。食事中はトレイからの出し入れは禁止とし、常に常勤職員がかたわらに座り、誤食のないようにしています。クッキーやハンバーグなど形状の変えられるものは変えて作り、見た目でも除去が分かるようにしています。 ・外国籍の子どもの保護者とは文化、生活習慣、考え方の違いを尊重し、話し合っています。言葉でのコミュニケーションが難しい保護者の場合は、県や市の機関の保育所向けの相談窓口を利用することとしています。
I－6 苦情解決体制 	・保護者からの要望や苦情に対応する仕組みとして、第三者委員3名の明記を含む「意見・要望・苦情・不満を解決するための仕組み」を配付しているほか、玄関に掲示しています。その他の具体例として、玄関に意見箱を置いています。懇談会、アンケートなど進んで要望や苦情を聞いています。また、保護者会として全保護者にアンケートを実施しています。外部の苦情解決窓口として、横浜市福祉調整委員会の連絡先を玄関に掲示しています。 ・要望・苦情に関して、園のみで解決できない場合は区のこども家庭支援課と連携して対応することとしています。苦情・要望は平成23年度から「苦情処理関係」ファイルに記録しています。 <工夫している事項> ・「苦情処理関係」ファイルは、メモシート、個人的な手紙、日々の連絡帳に寄せられた意見のコピー、申し出書などさまざまあります。意見要望に対しては、個別対応のほか、園だよりでのフィードバックもあり、データを蓄積・整理し、解決に活かされていることが伺えます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－１ 保育内容[遊び] 	・3、4歳児の保育スペース、5歳児クラスは低い棚やかごにおもちゃや教材を入れています。5歳児クラスは廊下に置いた本なども自由に出し入れしています。2歳児クラスまでは、遊びや活動によって出すおもちゃなどは職員が選んでいます。 ・活動や遊びによってテーブル配置、マットやゴザで一時的にコーナーを作っています。5歳児クラスの自由時間は廊下も遊び場所となっています。子どもたちはグループでままごとやブロックを使い見立て遊びをしたり、トランプ・かるたといったゲームをしたり、職員相手に静かに遊んだり、一人で絵本を読んだり、絵を描くなど思い思いに過ごしています。低年齢児は毎日、同じ遊びの繰り返しで成長に大切なことと考えています。 ・栽培は、年齢に応じた関わり方で成長や収穫の喜びを味わっています。収穫物でクッキングをしたり、給食の食材に加えてもらっています。2階のベランダでウサギ、玄關でカブトムシやクワガタムシを飼育しています。近隣の大学の馬術部に馬を見に行く、バッタやダンゴムシなど園外保育時に探すことも子どもたちのお気に入りです。 ・商店街、駅、工事中の大型クレーン、大学構内、田んぼなど関心を持ちながら歩き、地域や社会に触れたり、開花、新緑、実りや紅葉の時期、冬の裸木など季節の移り変わりを楽しめるように、散歩コースをたくさん用意しています。 ・歌が好きになるように2歳児クラスから毎朝「歌う会」を開いています。手話の得意な職員の指導で手話付きの歌を覚えており、体を使っての表現を楽しんでいます。散歩や活動時など子どもたちは自然に歌を口ずさんでいます。外部の専門講師によるアトリエ（絵画）、歌の教室、習字活動を通して自由な気持ちが表現できるようにしています。 ・オープンフロア保育のため、子どもたちは日常的に関わっています。恒例となっている5歳児クラスの運動会の出し物「龍舞」にあこがれ、4歳児クラスから「自分たちもやりたい」との意見が出たので、今年度は一緒に取り組んでいます。 ・職員は、穏やかで優しい言葉かけをしています。子どもが約束事を守れなかった時は注意をしますが、素直な「ごめんなさい」のほか、子どもに「なんでこうなったのかな」など問いかけながら、子どもの訴えや気持ちをしっかりと受け止めるよう努めています。 ・雨が降っていなければ、毎日散歩や公園などに出かけています。公園の固定遊具遊びのほか、大学構内の歩道や地域の緑道でのかけっこ、土手登り、石垣登りなど活動に取り入れています。夏の間は、屋上での水遊びやプール遊びを楽しんでいます。乳児は、室内では組み立て式の木のすべり台で遊んだり、ハイハイや伝い歩きが十分にできるようにしています。
Ⅱ－１ 保育内容[生活] 	・「〇〇くんの奇跡が見たいな」など職員の工夫した言葉かけにより、子どもは「ピーマン一つ食べる」と宣言するなど苦手な物も少しずつ食べられるようになっていきます。食べきれなかった場合も「次は頑張る」という前向きな発言が出ています。 ・離乳食後のミルクは職員が一人ずつ抱っこしてゆったりと与えています。飲み終わった後はげっぷが出るよう、背中をさすっています。 ・年間食育計画表に沿い、クッキング（梅ジュース、おはぎなど）体験見学（筍の皮むき、野菜の皮むき、味噌作りなど）、栄養士の話（3色食品群、食事のマナーなど）など取り組んでいます。その他栽培・収穫、3歳児クラスからの当番活動を通して、食に対する興味関心を育んでいます。 ・和食を中心としながら、毎月行事や季節に因んだメニューがあります。地域の信頼のおける商店から届く国産の食材の持つおいしさを生かすため、薄味を心がけ、だしは煮干しやかたお節などからひいています。 ・担任は、給食日誌にクラスの様子を記録し、調理室へ情報を提供しています。調

	理室担当職員もほぼ毎日クラスを回り、子どもたちと話しながら喫食状況を確認しています。月 2 回の職員会議内で給食会議を開き、意見交換しています。また、献立は 2 週間ごとのサイクルメニューなので、工夫の余地があれば次回に反映することができます。 ・食生活について保護者に対し、園だより内の給食だよりでは年間食育計画表に基づき、園の給食の考え方、今月の食材、食育クイズなど情報を載せています。玄関に、その日の給食・おやつサンプルを展示しています。レシピは給食だよりで知らせているほか、保護者からリクエストがあれば個別に対応しています。また、保育参加時に給食と一緒に食べ、普段の子どもたちの食事の様子を知ってもらう機会としているほか、年度始めの懇談会で今年度はだしの試食をしています。 ・午睡時、子どもに応じてトントンしたり、体をやさしくなでたりしています。眠れない子どもは布団で静かに過ごしたり、事務室で気分を落ち着けてから再度午睡を勧めるなど無理強いのないようにしています。0 歳児は 5 分、1 歳児は 10 分ごとにプレスチェック表にチェックをしています。顔色や汗をかいていないかの確認、うつぶせや横向きの場合は、そっと仰向けにしています。5 歳児クラスは、就学に向けて生活リズムを整えるために卒園の 3～4 か月前から午睡時間を減らしています。 ・排泄は、活動の区切りに声かけをしてトイレに誘ったり、その子どもに合ったペースでも誘っています。自立をしている子どもは自分のタイミングでトイレに行っています。おむつは、園での生活時間は基本布おむつを使用しています。おむつが濡れた時の不快な感覚を子どもは知ることができます。トイレトレーニングは保護者の意向を踏まえ、一人一人のリズムや間隔を把握するなど発達状況に合わせて対応しています。
Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理] 	・意義と、健康観察の実際が書かれた健康管理マニュアルがあり、それに基づき記録、伝達を行っています。職員は、子どもの様子を常に気にかけて、変化に対応しています。 ・歯磨き指導は 2 歳児クラスの子どものみがきちんと座れるようになってから行っています。仕上げ磨きは 5 歳児クラスまで行っています。昨年は歯科医を招き、保護者と職員向けに歯磨きに関する研修を実施しています。 ・嘱託医による内科健診を年 2 回、歯科健診を年 1 回実施しています。保護者から健診前に嘱託医への質問や相談を聞き、医師からの答えを保護者に伝えるなど連携をとっています。 ・保育中に感染症を発症した子どもの保護者へは、速やかに連絡をしています。お迎えを待つ間、子どもは事務室(医務室)で休ませています。感染症の発生状況は、感染症名のほか、いつ、本園と分園のどちらで何名、感染症の症状や、予防方法、観察上の留意点など大事な部分を彩色するなどして掲示をしています。
Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理] 	・マニュアルは、入職時に説明しているほか、全職員が参加の全体会議に毎年読み合わせと検討後マニュアルを一度回収しています。2017 年は 2 月と 8 月に検討がなされ、園長と主任で再検討後、8 月に新しい「マニュアルのファイル」を配付し、周知を図っています。 ・「衛生管理マニュアル」、「トイレの清掃マニュアル」、「早番マニュアル」、「遅番マニュアル」「土曜日・早番・昼・遅番の仕事」に基づき、毎日当番の職員が清掃をしています。清掃後には「トイレ清掃チェック表」、早番、遅番、土曜日の各チェック表に清掃や消毒をしたかの記録を残すことで、清潔を保っています。
Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理] 	・保育中の事故が想定される 68 項目、事故発生時の保護者や医療機関への対応について 12 項目を実施できているかを毎月末に確認する「事故防止チェックリスト」や、「おんぶマニュアル」があります。 ・各保育室の棚や、廊下の棚は、転倒防止の器具や、ひもで縛って固定しています。 ・「緊急連絡網」は職員に配付し、「防火・防災組織表」は事務室・分園保育室に掲示、「火災・地震時の、一時避難場所・広域避難場所・地域防災拠点」は本園玄関・分園保育室に掲示し、職員・保護者に周知しています。年度ごとに「避難訓

	練計画表」策定し、毎月想定を変えた訓練を実施しています。全職員が AED と心肺蘇生法を学んでいます。 ・事務室に警察・消防・医院関係を「緊急連絡先」として掲示しています。ケガは軽症であっても保護者に伝えていきます。受診が必要なケガは、事故報告と改善策を職員会議で検討し、再発防止につなげていきます。 ・本園、分園ともに入入口は1ヵ所で電子鍵になっており、来園者が誰であることをモニターで確認してから解錠しています。不審者対応マニュアルがあり、合言葉を決め速やかに子どもの安全を確保するようにしています。 <コメント・提言> ・備品等の転倒防止など安全対策を講じていますが、上に積み重ねたものが落ちてくる可能性がありますので、整理整頓と落下防止策を講じられることが期待されます。
Ⅱ－3 人権の尊重 	・保育方針の中に「子どもをまんやかに」という言葉があり、「子どもにとってどうか」という事をいつも確認しています。職員が話をしている途中でも、子どもから意見出た際には、他の子どもからの意見も出きって静かになるまで待ってから話を再開しています。職員は子どもに肯定的な声掛けをするようにしています。保育日誌や指導計画の記述も方針が貫かれた記載となっています。 ・3歳児保育室には”デン”と呼んでいる隠れ家的な小スペースがあります。5歳児は廊下の隅、4歳児には机の配置を工夫して一人になれるスペースを作っています。 ・守秘義務、個人情報の取り扱いについては、運営規定内と、「個人情報保護方針」において定め、入職時とマニュアルの見直し時の際に全職員で確認をしています。「実習生・ボランティア受け入れマニュアル」にも個人情報について定め、実習・ボランティアに入る前に説明をしています。保護者には入園時の説明や、必要に応じてその都度確認をしています。個人情報に関わる書類は、事務室の鍵のかかる文書戸棚に保管管理をしています。 ・園長が、父親・母親の役割など、性差への先入観による役割分業意識を植え付けないように常日頃から意識をもって接するように職員へ伝えていきます。「自己評価表」の項目内においても性差による先入観について確認しています。 <コメント・提言> ・2～4歳児クラスのフロアにあるトイレは、トイレトレーニングをする2歳児クラスも使用する都合でドアを取り外していますが、排泄が自立している幼児の心身の発達状況やプライバシーを考慮し、ドアを取り付けることが求められます。
Ⅱ－4 保護者との交流・連携 	・保育園入園を検討している時点での保育園見学会、入園が決定した後の入所説明会、その後のクラス懇談会などで保護者に基本方針を基にどのような保育をしていくのかを説明しています。毎月発行の園だよりに理念、目標、方針を載せ、理解を促しています。 ・全園児毎日、個別の連絡帳で保護者とやりとりをしています。その他、クラス全体のトピックがあった時は、クラス通信として連絡帳に添付しています。 ・個別面談は年1回実施しています。その他、保護者の希望など必要に応じていつでも実施できる体制があります。年3回のクラス懇談会はクラスの様子、今後の活動について伝えています。懇談会に欠席の場合は、懇談会用資料（子どもたちの保育の写真入り）を渡し、口頭で補足をしています。 ・保護者からの相談については、人の出入りの少ない時間帯を選び、事務室か現在5歳児の保育室で応じています。相談内容は「児童簿」に記録をしています。相談の内容によっては職員会議で共有し、園としてフォローができるようにしています。 ・保護者に、年度始めに年間行事予定表を配付しています。 ・保育参加を基本、年間を通し実施しています。予約制で各クラス1日1名で子どもとの時間を楽しんでもらっています。5歳児クラスは親子クッキングで夏野菜カレー、野菜サラダに取り組みました。保育参観は希望で随時受け入れています。

	・保護者会組織が十分に機能しています。保護者会としての保護者向けのアンケート実施およびまとめ、子どもたちの遠足の企画、園行事の保護者協力のための事前アンケートなど、コミュニケーションを図りながら園運営のサポート協力を得ています。保護者会とは別の自主的な活動「ママの会」「パパの会」もあります。 ＜工夫している事項＞ ・第三者評価の保護者アンケートでは理念や方針の認知度は 83%で、賛同度は 100%となっています。園の丁寧な取り組みが伺えます。 ・毎月発行している園だより「みんなのこどもたち」は、各クラスだよりも含まれており、保護者は全クラスの子どもたちや保育の様子を知ることができます。4月号は全園児の自己紹介文（保護者記載）を載せています。
--	--

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・毎月園主催で実施している子育て支援事業「遊ぼう会」の後に、参加者から相談や園への疑問などを受け止めています。地域の小規模保育園の職員の集まりや港北区の事業、地域の「赤ちゃん会」に協力している主任児童員、保健師、子育てボランティアなどと地域の子育て支援ニーズについて話し合っています。さらに港北区公私保育園合同育児講座「わくわく子育て広場」に実行委員として参加し、情報交換をする中でも地域の子育て支援ニーズの把握をしています。職員会議で子どもをめぐる社会情勢について、毎回話し合っています。 ・園の専門性を活かしたサービスとして、一時保育、交流保育（年約４回）、毎月園主催の子育て支援事業「遊ぼう会」を実施しています。また、年８回開催される、港北区の０歳児地域育児教室「赤ちゃん会」には主に園長が赴いています。園の栄養士による定期的な食育の学習会（今回は平成３０年１月）、交流保育では、外部講師を招いてダンスや歌を楽しむ会、歯に関する勉強会など行っています。絵本の学習会では、作家が短い言葉一つ一つに込めた思い、編集者の絵本編集に関するこだわりなど聴く貴重な機会になっています。
Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能 	・毎週火曜日 10:00-12:00 に育児相談を実施しています。毎月第２土曜日に保育園で実施している子育て支援事業「遊ぼう会」の後にも育児相談を受付けています。ホームページの「もろとみちゃんの子育てアドバイス」のコーナーでは、園長が子育てに関するアドバイスを発信しています。一時保育、子育て事業、育児相談、交流保育、その他のお知らせと宣伝は、園外壁掲示板やホームページにて行っています。 ・警察・消防・医院関係の緊急連絡先、各区の福祉保健センターの連絡先は事務室に掲示し、児童相談所や地域の保育園や行政機関のリストは連絡担当になっている園長が機関ごとに分けファイリングしています。各関係機関に連絡が必要になった時は、担当者は園長と主任が分担することとしています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニ	・コンサート、もちつきなどの園行事は、ホームページや保育園外壁掲示板を通じて地域の人をお誘い、毎回何組か参加を得ています。 ・港北ふるさと夏祭り・秋祭りでは地域の人たちと実行委員会から関わっています。

ティへの働きかけ 	・年に一回年長児と小学一年生との交流を行っています。子どもが通う全小学校に園長が保育要録を持参し、小学校の雰囲気を感じ取ってくるようにしています。中学生の職業体験授業、高校生のインターンシップの受け入れもしています。 ・地域の小学生以上を対象にした「習字教室」（毎月第1、第3土曜日開催）の場所を提供しています。園の備品の貸し出しもいつでも受け付けていて、特に印刷機は重宝されています。 ・町内会に入会し、第三者委員は副会長にお願いをしています。散歩など園外活動時は、地域の人々に挨拶をしたり、遊びに来ていた親子連れに、園児が遊び道具を貸してあげたりと地域の人と自然な関係を築いています。お泊り保育やクッキングの材料を商店に子どもと一緒に買いに行っています。毎年ハロウィン行事では、4、5歳児が仮装をして近くの商店街を歩き、お菓子をもらっています。 ・運動会は毎年、日吉台小学校の体育館を利用しています。綱島公園にある子どもログハウスのモッキーなど近隣の公園や施設などで良いものがあれば利用をしています。 ・遊びや食、睡眠など子育て保育に生かせることを分科会や講演会等で学習し合う「よこはま保育のつどい」の実行委員に職員が変わり番で年間を通じて取り組み、他園の保育士や保育関係者とともに、日吉地域、港北区、横浜市レベルで子育て支援に取り組んでいます。 ・近隣の（下田）地域ケアプラザで実施される「平和と健康フェスタ」に参加し、出しもので子どもたちが歌を披露しています。
IV-2 サービス内容等に関する情報提供 	・ホームページにて提供サービス、保育内容、子育てアドバイス等の情報を定期的に発信しています。園のパンフレットは、わくわく子育て広場など、地域との交流時に持っていき配布するとともに、遊ぼう会の来園者へも配付しています。NPO法人びーのびーの発行の「びーのびーの幼稚園と保育園ガイド」に園の情報を毎年提供しています。 ・見学希望など電話での問い合わせは事務室にいる職員が対応しています。見学の基本は毎月の「遊ぼう会」後に実施をしていますが、10月は2回追加日を設けています。利用希望者の関心が高く、毎回盛況です。日程が合わない場合は、保育に支障がない時間で案内をしています。
IV-3 実習・ボランティアの受け入れ 	・実習生とボランティアには、「実習生・ボランティア受け入れマニュアル」をもとに、保育理念、保育目標、保育方針、保育に関わる際の配慮事項などの説明をしています。ボランティアの受け入れと育成は、園長と主任が担当し、受け入れ時にボランティアの目的やねらいを聞き、ボランティアに関わる職員へ引き継ぎボランティアの育成をしています。 ・実習生の受け入れ担当は主任としています。受け入れている大学や専門学校と交流機会がある時は職員が積極的に参加し、学校側のねらいなどを聞いて受け入れをしているので、指導しやすい状況が作られています。実習中の記録は学校側の実習日誌を用い、指導は担当クラスの担任だけではなく、主任、園長も確認しています。実習中の疑問や、困っている事は昼休みなどに事務室に来てもらい聞いています。実習の終わりには必ず意見交換の場を設け、実習の総合所見に反映をしています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
V-1 職員の人材育成 	・毎年10月位に行う意向調査では、来年度の進退、希望のクラス、働き方や悩みなどを書いてもらい、園長と面談後「来年度の人事調査表」にまとめ、人材確保や、来年度の職員構成に反映しています。職員の資質向上のための具体的な目標を定めた書式があり、人材育成計画を策定しています。経験年数やスキルに合わせた個別の研修計画の書式があり、進捗状況の確認ができるようになっています。

	・研修計画は主任が各職員の要望を聞き、園長と検討後に園長が作成しています。消防署員を招いた心肺蘇生・AEDの研修を全職員が受けています。栄養士による食育や、外部講師を招いての研修は地域の人にも参加できる形式で実施しています。外部研修参加後には研修記録を作成し、職員会議にて報告をしています。研修内容の見直しが必要なものは園長と主任が見直しをし、スキルアップに活かせるようにしています。 ・非常勤職員にも常勤職員と同様のマニュアルが配付され、マニュアルの見直しの会議にも参加し業務内容を共有しています。研修希望があれば非常勤職員も参加でき、資格取得の希望があれば、シフト調整などの配慮をしています。非常勤職員の指導担当は主任が担い、気になる事や、相談に応じています。
V-2 職員の技術の向上 	・今年度から横浜市の第三者評価項目に沿った自己チェックリストを作成、職員に配付し、園長が項目ごとにまとめています。今後職員会議などで検討し、園の「自己評価」につなげていく予定です。 ・他園との連携を意識しているので、交流会などの際には保育実践など良いところを積極的に学び、取り入れるようにしています。 ・必要に応じて、横浜の保育問題協議会、園長の会、横浜市総合リハビリテーションセンターから指導やアドバイスを受けています。 ・年間指導計画、月間指導計画、週案・保育日誌（0、1歳児クラスは保育日誌のみ）があり、書式が定型化されています。年間指導計画（期ごと）・月間指導計画に自己評価の欄があります。子どもの様子、取り組む姿を書くように努めています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題は職員会議で話し合っています。 ・指導計画や週案・保育日誌から出た自己評価は職員会議で話し合って議題を明らかにしています。 <工夫している事項> ・今年度から、職員会議内で子ども様子、業務で気づいたこと、職員の思いなどタイトルを付け「実践記録」として発表すること（自由発表）に取り組んでいます。他の職員の感性や視点を学び合うことでサービスの向上につなげていこうとしています。
V-3 職員のモチベーションの維持 	・職員の経験年数や職位に合わせた園の特色に応じたキャリアパスを構築し、習熟度に応じた役割を期待水準として明文化しています。 ・「2017 職員行事担当」として①行事ごとのリーダーと担当者。②係として、情報管理・ホームページ・施設管理・教材・防災・食育の担当者。③園外行事として、つどい・ワクワク・給食セミナー・フェスタ・合研（全国保育団体合同研究集会）・夏まつりの担当者を定め、現場職員に権限を委譲して責任を明確化しています。 ・職員からの業務改善提案は、職員会議の場で募ったり、職員が直接園長、主任に申し出ています。普段から主任が各職員とコミュニケーションをとるようにしており、個々の職員の要望や悩みを聞いています。毎年10月位に行う意向調査時には、園長が職員と面談を行い、職員の満足度・要望などの把握もしています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・運営規定にて、差別や虐待、個人情報保護等、法や規範、倫理などを明文化し、入職時に配布、説明しています。 ・経営、運営、保育に関する社会情勢などの情報は、職員会議内の「情勢」の議題で伝えられているほか、労働組合との交渉の場においても公開しています。決算については園のホームページにて公開をしています。 ・他施設での不正、不適切な事案についても、職員会議の「情勢」の際に、それらの行為を行わないようにその都度話をしています。

	・プラスチック、普通ゴミ、ミックスペーパーなどは、ごみ箱を分けて収集をしています。牛乳パック、ペットボトルのフタなど、廃材を利用したおもちゃの制作や、野菜作りの堆肥は生ごみをコンポストで堆肥にしたものを利用するなど、ごみの減量化、リサイクル、緑化の促進に取り組んでいます。 <工夫している事項> ・園内に「いつでもバザー」コーナーがあり、古着のリユース品を100円で販売しています。保護者のほか、地域向けの子育て支援などの来園者が利用しています。 ・使用しなくなった絵本などを、陸前高田の図書館に寄付しています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・「保育方針・理念・保育目標」は採用時に配付、説明するとともに、毎月の園だよりでの掲載、本園の玄関と分園の保育室に掲示することで、職員と保護者がともに意識できるようにしています。自己チェックリスト内に、保育の理念や基本方針について問う項目があり、理解がされているかの確認もしています。 ・園長は保護者会の窓口担当者と常に意見交換をしています。重要な意思決定は、主任・園長会議にて、各主任・園長、各事務長、栄養士、事案に関係する職員で検討後、職員会議で検討をしています。保護者には、年3回の全体懇談会の際に説明をしています。今年の4月には、土曜保育を姉妹園の下田みんな保育園と共同保育をする件について説明、質問を受け、保護者全員から同意書もらっています。 ・キャリアパスに基づき主任クラスを計画的に育成する仕組みがあります。主任は現場に入ったり、本園は朝、分園は昼食後にひとまわりする中で、子どもや職員の様子、保育内容などを確認しています。職員の勤務終了時には主任から声をかけ、コミュニケーションを図り、相談にのったり、職員一人一人に合わせた助言や指導をしています。また、それらを考慮して勤務調整、業務のフォローなどを行っています。 <工夫している事項> ・理事会、特定非営利活動法人の社員、各園長・主任、職員組合、保護者会、地域の人、卒園生が入会して組織している「保育園後援会」があり、何かあった時の保育園の相談組織となっています。
VI-3 効率的な運営 	・事業運営に影響のある情報は、横浜市の民間保育園30園程で組織する「園長の会」で園長が収集しているほか、設置法人の理事会、事務長が関係機関からアドバイスを得ながら収集しています。園の重要な事案については、園長、主任、副主任で検討をし、職員会議で説明、周知をしています。 ・次代の施設運営に備え、姉妹園開設にあたっての園長候補について、当時の主任を副園長とし、園長とともに園長業務や、会議、他園への情報交換のための訪問に同行してもらい、園長としての資質を磨いてもらうなど、計画的に後継者を育成しています。 <コメント・提言> ・中期・長期計画にて、園の今後の方向性を示しています。地域情勢や保育園に求められる支援ニーズの把握に努めながら中長期計画内に取り入れていかれることが期待されます。併せて園の進む方向をさらに明確にするため、中長期計画の定期的な進捗状況確認の機会をもつことも期待されます。

利用者家族アンケート

事業所名：日吉みんなの保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数48名、全保護者39家族を対象とし、回答は36家族からあり、回収率は92%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は100%（満足67%、どちらかといえば満足33%）と高い評価を得ており、否定的な回答は0%でした。

◇ 比較的満足度の高い項目（満足、どちらかといえば満足）

- 1) 100%：給食の献立内容、基本的生活習慣の自立、お子さんの重要情報連絡体制、あなたのお子さんが大切にされているか
- 2) 95～99%：クラス活動や遊び、戸外遊び、おもちゃや教材(自由に使える、年齢にふさわしい)、遊びを通じた友達や保育者との関わり、給食を楽しむ、不審者侵入対策、感染症情報対策、職員対応（話しやすい雰囲気・態度）
- 3) 90～94%：園の目標・方針説明、年間保育・行事の説明、園外活動(自然、地域)、遊びを通じた健康づくり、お子さんの状況に応じた昼寝・休憩、体調への気配り、ケガの説明と対応、園の様子・行事に関する情報提供、行事開催日・時間帯への配慮、お子さんの様子情報交換(送迎時)、相談事への対応、残業などでお迎えが遅くなる場合の対応

◇ 比較的満足度の低い項目（どちらかといえば不満、不満）・・・なし

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
%	19%	64%	17%	0%	0%	0%

付問1

問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
%	60	40	0	0	0	0

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	59	19	3	0	19	0
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	53	33	0	0	11	3
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	52	39	0	0	6	3
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	61	19	6	0	8	6
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	57	31	3	0	6	3
	その他:					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	56	33	0	0	8	3
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	47	47	3	3	0	0
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	38	42	6	3	11	0
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて		満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	%	72	25	0	0	3	0
		その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	%	72	25	3	0	0	0
		その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	%	72	25	3	0	0	0
		その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	%	72	22	3	0	3	0
		その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	%	78	19	0	0	3	0
		その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	%	69	22	3	0	6	0
		その他:					

生活について		満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	%	94	6	0	0	0	0
		その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	%	91	6	3	0	0	0
		その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	%	89	11	0	0	0	0
		その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	%	75	19	3	0	3	0
		その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	%	66	14	6	3	11	
		その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	%	69	25	3	0	3	0
		その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	%	63	31	3	0	3	0
		その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
施設設備については %	28	55	8	6	3	0
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については %	52	31	14	3	0	0
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については %	47	49	1	0	0	3
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については %	64	33	3	0	0	0
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については %	64	25	11	0	0	0
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については %	77	14	3	3	3	0
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については %	50	44	3	0	3	0
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については %	50	42	8	0	0	0
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については %	61	39	0	0	0	0
	その他:					
保護者からの相談事への対応には %	58	33	6	3	0	0
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には %	80	14	0	3	3	0
	その他:					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	%	78	22	0	0	0	0
		その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	%	78	19	3	0	0	0
		その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	%	56	19	0	0	25	0
		その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	%	83	17	0	0	0	0
		その他:					
意見や要望への対応については	%	58	31	3	0	8	0
		その他:					

問8 保育園の総合的評価

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	%	67	33	0	0	0

観察方式による利用者本人調査

平成 29 年 9 月 12 日

事業所名：日吉みんなの保育園

【0 歳児】

<遊び>

保育室には 3 名の子どもと 2 名の保育士がいます。1 名は保育士に背負われて午前寝中です。子どもは保育士に絵本を読んでもらい「あーあー」とご機嫌な声が出ます。好きなだけハイハイをしたり、保育士に支えてもらいながら立ち上がって笑顔を見せる、抱っこしてもらい、高い高いをしてもらい、保育士の手遊びを不思議そうに眺めるなどマンツーマンで遊んでいます。低い柵越しに一人の 1 歳児クラスの子どもの 0 歳児の遊ぶ様子を楽し気に見ています。

<排泄>

マットを敷いたところでおむつを替えてもらいます。保育士は子どものお腹をコチョコチョしたりスキンシップを図りながらおむつを替え、最後に「さっぱりしたね」と子どもを抱っこしています。

<授乳・食事>

「もぐもぐ」「おいしいね」「これはごはんだよ」など笑顔で話しかけながら一人一人の飲み込みや食欲を見ながらスプーンを口に運んでいます。柔らかく茹でたニンジンスティック状にしたもの、茹でたナスは子どもが自分で持って食べています。午前寝から目覚めた子どもは遅れて食事を始めます。食後の授乳は、保育士が抱っこをして与えています。飲み終わると立て抱きをして背中を軽くトントンし、げっぷを出させています。

<午睡>

離乳食後、同じフロアの 1 歳児クラスの子どもたちが午睡に入っても、皆午前寝をしているのでまだ元気いっぱいの様子です。

【1 歳児】

<自分でできた>

着替えのズボンを自分で穿こうと頑張っている子どもがいます。何とか両足を入れ、ズボンを持ち上げ、満足そうに保育士に見せます。「はけた、はけた」と保育士も嬉しそうな笑顔で、子どものお尻部分で丸まっているズボンをさり気なく整えています。

＜絵本の読み聞かせ＞

子どものリクエスト本を含め、数冊を読みます。一冊読み終わると「つぎ～」と子どもたちは待ちきれない様子です。ぐずっている子どものために特別にイスを用意します。イスに座ると少し落ち着いた様子です。その子どもが、お話の楽しさに椅子を離れて絵本に近づくと、すかさず別の子どもが座ります。自分の席がなくなったことに気づき、また泣きます。

＜排泄＞

保育室内にマットを敷いてオムツを替えてもらいます。自分で布おむつを揃える子どももいます。トイレでの対応は一人ずつのようですが、一人の子どもが「〇〇ちゃんもトイレいく」と駄々をこね、納得しない様子です。保育士は「特別」という様子で、二人をトイレに入れます。先にトイレに座った子どもに「チー出るかな～」と話しかけます。出ない様子でしたが、「ジャー、バイバイ」と水を流す後始末を教えています。

＜食事＞

配膳の前に保育士は、子どもたちが食べやすいようにナスをキッチンバサミでカットしています。配膳が終わると「今日はマグロのグラタンだって。めずらしいね」と献立を説明します。みんなで「いただきます」をして食べ始めます。子どもたちはスプーンを使って食べています。一人の子どもが眠さに勝てず泣きます。保育士は食べやすいように味噌汁など試みますが、無理強いせず、「少し寝よう」と布団を用意し、子どもを寝かせます。食欲旺盛で口いっぱい頬張る子どもに保育士は「あんまり入れるとオエっとなっちゃうよ」と話しています。子どもたちはグラタンがお気に入りの様子で「グラタンタンタン・・・」と歌が始まります。

＜午睡＞

電気を消し、カーテンを引き静かな環境を作っています。まだ眠くない様子の子どものは自分の布団でコロコロとしています。保育士の真似をして「ネンネンヨ～オトロリヨ～」と口ずさむ子どもがいます。子どもたちは保育士に体をさすってもらったり、おでこを撫でてもらうたりしてそれぞれ入眠していきます。

【2歳児】

＜散歩＞

子ども連れの地域の人、散歩中の他の保育園のグループを見かけると「こんにちは～」と挨拶を交わします。お店のポスター、看板、登り旗、喫茶店のメ

ニュー表など子どもたちは目につくと「なに?」「なんてかいてあるの?」など次々に保育士に質問していきます。「うーん、これはね・・・」と保育士が質問の答えに詰まってしまう微笑ましい場面もあります。気分が良いのか、「おもちゃのチャチャチャ・・・」と口ずさむ子どもがいます。信号待ちの間、「あっ、クレーンしゃ」と道の右手向こうにある工事中のクレーンを嬉しそうに指差す子どもがいます。一人の子どもが「ぼく、あんまりすきじゃなーい」と関心の無いように言いますが、「えー、昨日は〇〇くん、くぎ付けだったよー」と保育士。子どもの本音はお見通しの様子です。

慶応大学内の歩道は子どもたちは手をつながずに自由に歩きます。かけっこのスタートで転んでしまった子どもを助けに戻る子どもがいます。「〇〇くん、ありがとう」と保育士が伝えると「何でもないよ」というような表情を子どもは見せます。グラウンドが見渡せるデッキでは、ボール、シャボン玉、運動中の学生を眺めるなど子どもたちは思い思いに遊びます。遊びに来ていた親子連れにボールを貸してあげる子どももいます。昨日から機嫌の良くない子どもは、手をつないでもらっていた保育士が別の子どものおむつ替えで姿が見えなくなると、不安そうにベソをかきますが、保育士が戻ってくるとほっとしたのか、少し笑顔が戻ります。

<排泄>

慶応大学に到着後、おむつが濡れている子どもがいたので、人目に触れない場所に移動をして替えています。

<食事>

おかずに入っているもの当てクイズをします。「ごま」「タマネギ～」など子どもたちは元気に答えます。その後みんなで「いただきます」をして食べ始めます。「いっぱいカミカミして食べてね」「スプーンの持ち方大丈夫かな?」「〇〇ちゃん、お背中まっすぐ、すてき～」と保育士は子どもたちの様子を見ながら声をかけています。保育士に褒められたくて苦手?なナスをパクパクと食べている子どもに、保育士は「わー、えらい」と褒めながらも少し心配そうです。

【3 歳児】

<食事>

食事中は「デンデンデン」とリズムカルな声掛けをするなど、楽しい雰囲気をつくりながらの食事に行っています。気が散ったり、食事がすすまない子どもへは「ハイ、大きなおくちー」「たべちゃうぞー」「〇〇だけでいいから」「とまってまーす」と、子どもが食事に集中するように声掛けをしています。

【3・4 歳児合同保育】

<体操>

アニメ番組のテーマソングに合わせ、3、4 歳児が合同で体操をしています。保育士は笑顔で子どもたちに声をかけ踊り方を教えており、子どもたちも笑顔で一緒に踊っています。この曲は始めたばかりという事で、まだ自信のない何人かの子どもは、無理して参加はしないで踊りを座ってみています。

【4 歳児】

<食事>

食前に「スプーンの持ち方ねー」と保育士が見本を見せながら説明しています。子どもが「こう?」と聞くと「そうそう」と保育士がほめています。友だちと自由に話をしながら食べています。保育士は子どもからの問いかけにはすぐに応えています。スプーンがきちんと持てていない子どもには、他の子どもには悟られない程度の指差しで持ち方が違う事を教えています。食事がすすまない子どもには、「アーン」と促してみたり、他の子どもにあげるふりをしてみたり、時間をおいて再度声かけをするなどしていますが、無理にすすめることしていません。

<午睡>

子どもが「トイレ行ってくる」と保育士に伝えと、「行ってらっしゃい」と保育士は見送ります。布団に寝そべっていない子どもには、「目をつぶって、頭をお布団につけて、横になってくださーい」と静かに声をかけます。大体の子どもが寝そべったら本を読む時間ですが、保育士は子どもたちが静かになってから小さな声で話し始めます。そうすると子どもたちは話を聞こうと集中しています。他の保育士に背中をトントンされ、そのうちに眠りについています。

【4・5 歳児合同保育】

<散歩>

散歩前に保育士の説明がありますが、子どもの発言に答えたり、話を広げて他の子どもの意見を引き出したりしています。散歩中は子ども同士で話したり、「ワンちゃんがいた」「いたねー」と話したり、マンホールに興味を示した子どもがいるとその話題で話すなど、地域で見たものや動物や花の話を保育士や友だちと楽しみながら歩いています。子どもが自然に歌い出すと、保育士も他の子どもも一緒になって歌います。民家の花壇が見える所で、保育士と子どもが咲いている花の話をしていると、掃除をしていた家人が気づき、「種とっていいよ」と話しかけてくれます。

＜運動会のリレーの練習での出来事＞

みんなと一緒に並べない子どもがいます。すると一人の子どもが「〇〇くん、はぐれてるー」と気づいて保育士に教えています。保育士は子どもの気持ちが前向きになるタイミングを見て、さりげなく列に戻しています。リレーの練習では、途中でコースを外れ違う方向に走って行ってしまう子どもを見ると、一人の子どもが、その子どもの方へ走り、声掛けをして手をつなぐと一緒に走り始めます。すると他の子どもも一緒に走り始め、最後は全員でゴールです。

＜公園での自由遊び＞

おままごとの役割や場面を子ども同士で話しあったり、ペットボトルやスコップで池を作って数人で遊んだり、一人やみんなで走ったり、だるまさんが転んだをしたり、ブランコ、うんてい、鉄棒などの大型遊具で各々自由に遊んでいます。保育士は大型遊具に見守りで付き、遊ぶ時の注意や、遊び方のポイントを教えています。みんなと一緒に遊べない子どもは保育士がずっと抱っこをし、子どもが「葉っぱは生きているの?」と聞くと保育士が「木に付いていのは生きている」など笑顔で話しかけると、子どもは安心した様子でいます。

【5 歳児】

＜食事＞

ご飯は、多めと、少なめのものが用意され、子どもたちは好きな方を選んでいきます。当番がメニューと姿勢を正しくすることを伝え、みんなで元気にあいさつをして食事が始まります。子どもが「さんまってなあに?」と聞くと、保育士は子どもたち同士でさんまの話が盛り上がるころまで説明し、あとは見守っています。片手で食べている子どもには、その子どもに聞こえるくらいの声でさりげなく、「手を出して」などと伝えています。食が進まない子どもにも「〇〇ちゃんよく食べたね」「無理しない(でいいよ)」とやさしく声をかけています。

＜午睡前＞

パジャマに着替えた後は、保育室前の廊下の本棚から好きな本を選び、イスや床に座り、友だち同士や一人で読んでいます。午睡前に保育士が本を読みます。この日は子どもたちのリクエストで中国の話です。子どもが「インドネシアのお話?」と聞くと「中国の」と保育士、「アルゼンチンかと思った」と子ども、さらに「アルゼンチンってどこ?」と子どもが聞くと「アメリカの下」と保育士。子どもが外国のことに自然に興味を持ち話しています。

平成 29 年度 横浜市第三者評価 日吉みんなの保育園事業者コメント

【受審の動機】

横浜保育室から認可保育園になり 3 年に 1 度、今回 2 回目の受審となりました。1 度目は無我夢中のときでしたが、今回は自覚した中での受審でありました。園長にとっても職員にとっても保育を見直す良い機会にしようと考えて取り組みました。

【受信した結果】

職員一人一人が保育を振り返り、出来ていない部分を話し合うことが出来ました。今後の保育園を見直す良い機会になりました。保護者からの総合評価が「満足」「やや満足」で 100% の評価を受けました。日ごろ職員が誠心誠意、子どもや保護者に接してくれていることが評価されたと思います。

【今後の取り組み】

今後更に保護者の方々の声をしっかり聴いて保育をしていきたいです。職員と保育の研鑽を重ねていける環境づくりをし、子どもたちが毎日楽しく心身とも大きく成長できるような保育園にしていきます。園長として、職員が働きやすく甲斐のある職場になるようにしていきます。

今回の第三者評価受審に際し、ご尽力をいただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児も保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。